

		回数	内容	サテライト 開講	対面/録画
授業の計画	第1回	キックオフ、チーム分け。 ケース1 ①ケース配布 土曜6限		—	対面
	第2回	ケース1 ②チーム議論(4コマ)		—	対面
	第3回	ケース1 ②チーム議論(4コマ)		—	対面
	第4回	ケース1 ②チーム議論(4コマ)		—	対面
	第5回	ケース1 ②チーム議論(4コマ) ケース2 ①ケース配布		—	対面
	第6回	ケース1 ③成果発表とクラス議論(1コマ)		—	対面
	第7回	ケース2 ②チーム議論(4コマ)		—	対面
	第8回	ケース2 ②チーム議論(4コマ)		—	対面
	第9回	ケース2 ②チーム議論(4コマ)		—	対面
	第10回	ケース2 ②チーム議論(4コマ) ケース3 ①ケース配布		—	対面
	第11回	ケース2 ③成果発表とクラス議論(1コマ)		—	対面
	第12回	ケース3 ②チーム議論(4コマ)		—	対面
	第13回	ケース3 ②チーム議論(4コマ)		—	対面
	第14回	ケース3 ②チーム議論(4コマ)		—	対面
	第15回	ケース3 ②チーム議論(4コマ)		—	対面
	試験	ケース3 ③成果発表とクラス議論(1コマ)		—	対面
成績評価	ケース1のチーム報告(チームとして評価するが、個人の役割・貢献を加味することがある)(15%) ケース2のチーム報告(チームとして評価するが、個人の役割・貢献を加味することがある)(15%) ケース3のチーム報告(チームとして評価するが、個人の役割・貢献を加味することがある)(15%) 個人活動内容(25%) 他メンバーへのアドバイス(15%) クラス議論での参画度合(15%)				
教科書・教材	教科書は特に指定しない。ケースは配布する。				
参考図書	必要に応じて、指示する。				
獲得可能なコンピテンシー		獲得可能度合 (◎ ○ △ -)	獲得可能な内容		
メ タ	コミュニケーション能力	○	チームディスカッション チーム報告でのプレゼンテーション		
	継続的学修と研究の能力	—			
	チーム活動	◎	チームによるケースの検討		
コ ア	システム提案・ネゴシエーション・説得	—			
	ドキュメンテーション	—			
	革新的概念・発想	—			
	ニーズ・社会的・マーケット的視点	—			
	問題解決	—			
	リーダーシップ・マネジメント	—			
	ファシリテーション・調整	—			

専攻名	両専攻共通	必修・選択	選択	単位	2	学期	4Q
科目群	産業材料研究科共通科目	科目名 (英文表記)	国際経営特論 International Entrepreneurship Studies			教員名	前田 充浩

概要	<p>2015年12月31日にAEC(ASEAN経済共同体)がスタートした。この文明的な意義を正しく理解しなければならない。AECだけではなく、現下、アジアは人類史的な超激変の時期を迎えている。現下のアジアを、古びた理論、枠組みで捉えようとする者は、20世紀には栄華を極めていようと、21世紀には敗者となる。5年前の常識は通用しない。</p> <p>本講義は、講義と演習の組み合わせにより、このような激変のアジアにおいて、実際にビジネスを展開し、成功を収め、かつアジア人の尊敬を集めるグローバル人材に成長する機会を提供する。</p> <p>アジアにおいて真の成功を手にするためには、ビジネスに関する基礎能力が備わっていることは必須であるものの、それだけではなく、「人間力」(人間としてアジア人の尊敬を集める資質)を獲得することが必要である。「人間力」獲得のためには、「アジアの大義」を理解していかなくてはならない。さらに、現状では理論化が十分に追いついていない、東アジアで進展中の人類史上初の高度な生産ネットワークの真髄を理解していかなくてはならない。</p> <p>本講義では、「人間力」、「アジアの大義」の理解のために、アジアの発展を国際関係論、文明史等の視座から捉える方法論を提供する。またビジネスの基礎能力獲得のために、PPP(官民協調)、各種のファイナンスの仕組み等の基礎的な知識を示す。さらに、現下の東アジアの生産ネットワークについて、アカデミズムの最先端の理論(セカンド・アンバンドリング、GIN(Global Industrial Network)、Globalization2.0、Re-Orient2.0等)を紹介する。演習では、アジアの個別のビジネス・プロジェクトを選択し、その経営計画を策定、発表し、指導を受けて修正し、水準に達する経営計画の策定を目的とする。</p>						
目的・狙い	<p>この授業は、学習者が、現下のアジアの発展の歴史的経緯、文明的意義の理解の上に、経営計画の策定に集約される民間企業の経営実務能力を獲得することを目的とする。具体的には、学習者はこの講義を通じて以下の知識や能力を習得できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.アジアの発展の歴史的経緯、文明的意義を理解する。「アジアの大義」を理解し、「人間力」を獲得する。</li> <li>2.インフラ等の案件に関するファイナンス、PPPの仕組みについて理解し、企業経営の基礎を学び、経営実務能力を獲得する。</li> <li>3.東アジアで進展中の人類史上初の高度な生産ネットワークの真髄を理解する理論モデルを学ぶ。</li> <li>4.具体的なアジアのプロジェクトに関する経営計画の策定能力を獲得する。</li> </ol>						
前提知識 (履修条件)	<p>アジアを中心とする発展途上国の経済発展への貢献に関心があること。 (将来、アジアにおけるビジネスに携わる希望があれば、更に望ましい)</p>						
到達目標	<p><b>上位到達目標</b> アジアを中心とする海外(発展途上国)における企業設立、運営に関する十分な実務能力を獲得し、実現性のある経営計画を策定できるようになる。 上記企業の経営の中核を担うことができるようになる。</p> <p><b>最低到達目標</b> アジアを中心とする海外(発展途上国)における企業設立、運営に関する基礎知識を理解し、経営計画の必要項目を記述できるようになる。 上記企業の経営の補佐ができるようになる。</p>						
授業の形態	形態	実施	特徴・留意点				
	録画・対面混合授業	—					
対面授業	講義(双方向)	○					
	実習・演習(個人)	○	アジアにおけるビジネス企画案を作成し、発表する				
	実習・演習(グループ)	—					
	サテライト開講授業	—					
	その他	—					
授業外の学習	<p>毎回、次回の授業に関連する課題を指示するので、事前に作成すること。</p>						
授業の内容	<p>第1部として、ASEAN、FTA(EPA)、ASEAN+3、アジアの生産ネットワーク等、今後のアジアにおけるビジネスに関わるために必須となる内容を講義する(「アジアの大義」の理解を促す)。第2部として、東アジアで進展中の人類史上初の高度な生産ネットワークを理解するための最先端の理論を講義する。第3部として、PPP(官民協調)、ファイナンス等、ビジネス・プロジェクトの企画を行うために必須となる実務的な内容を講義する。第4部として、学習者が、具体的なアジアのビジネス・プロジェクトの企画立案を行い、指導を受ける。</p>						
授業の計画	回数	内容				サテライト開講	対面/録画
	第1回	15回の講義概要全体の説明を行うとともに、現在日々ニュースの中心となっている、TPP、RCEP、FTAAP、CEPEA等の地域統合について、その原理と歴史的背景を説明する。				—	対面
	第2回	地域機構ASEANの歴史と原理について説明する。特に、1967年に安全保障機構として設立されたASEANは、20世紀末以降、ASEAN Centralityにより、世界の経済統合の動きを牽引するようになった。その歴史的経緯を俯瞰する。				—	対面
	第3回	20世紀末以降のASEANの成功は、ASEANが人類史上初の「叡智」を生み出し続けているためである。この「叡智」を理解する鍵が、発展戦略、とグローバル生産ネットワークである。この2つの軸によって世界の経済の動きを分析する「Global Production Network Analysis」の概要を説明する。				—	対面

	第4回	Global Production Network Analysis に基づき、20 世紀後半以降、欧米、ソ連陣営、日本、東アジア諸国、世界銀行等の国際機関等が開発した各種の発展戦略を評価する。これにより、それらの主体はどの程度に頭が良かったか、またどこでしくじったかが判明する。	—	対面
	第5回	Global Production Network Analysis に基づき、ASEAN の先端性を理解する。ASEAN の画期的なところは、1980 年代～1990 年代に原加盟国がすばらしかっただけではなく、1990 年代後半以降カンボジアをはじめとする新規加盟国がまたすばらしい創造性を発揮していることである。	—	対面
	第6回	Global Production Network Analysis に基づき、今後のアジア（東・東南・南アジア）の経済動向を見通し、ビジネス・チャンスを探る。特に、今後投資の急拡大が見込まれる幾つかの国について、最新の投資環境情報を学ぶ。	—	対面
	第7回	グローバリゼーションについて、アジアのみならず、アフリカにおいても、多くの「発展途上国」が順調に経済成長を進めていることから、従来のように、先進国の巨大資本が世界中を搾取する、という形の理解だけでは不十分であり、アジア、アフリカ各地がグローバル生産ネットワークにより、自発的に連結しつつあるという、新しい形のグローバリゼーションを視座に収めることが必要であることを学ぶ。	有	対面
	第8回	アジアでビジネスを展開する上で最重要となる、ファイナンスについての基本的考え方を学ぶ。アジアにおけるビジネスの鍵は、生産面において世界の先端を走る多くのアジア諸国では、「従来型（authentic）」な金融制度は未整備である場合が多い。しかし、ここがチャンスである。世界最先端のファイナンスの仕組みを導入する可能性が大きく開かれているのである。	—	対面
	第9回	インフラ・ファイナンスという特殊な、かつビジネス規模としては超巨大なビジネスのファイナンスの基本的な特徴を学ぶ。具体的には、正の外部性、量の問題、配分の問題、持続可能性である。	—	対面
	第10回	インフラ案件等において用いられつつある、PPP（Public Private Partnership）方式を学ぶ。20 世紀においては民間企業の進出が困難であった超巨大なインフラ案件は、PPP 方式により、21 世紀には莫大なビジネス・チャンスを民間企業に提供するようになっている。	—	対面
	第11回	中小企業ファイナンスについて、その原理とアジア各国における実情を学ぶ、さらに、現下、アジアで進められている中小企業の格付け制度について、最先端の実情を学ぶ。	—	対面
	第12回	証券化、クラウド・ファンディング、各種のベンチャー・キャピタル等、中小企業がアジアに投資する場合に活用することが可能な最先端の金融技術について学ぶ。	—	対面
	第13回	アジアのビジネス・プロジェクト企画案発表及び内部検討Ⅰ 学習者が、講義において示されたビジネス案件の中から特定のプロジェクトを選択し、講義で示された PPP 等の方法論を用いて策定したビジネス・プロジェクトの企画案の「概要」の発表を行い、それに対してコメント、指導を得る。	—	対面
	第14回	アジアのビジネス・プロジェクト企画案発表及び内部検討Ⅱ (第13回と同様)	—	対面
	第15回	アジアのビジネス・プロジェクト企画案最終発表 学習者が、内部検討の結果を踏まえてアップグレードしたアジアのビジネス・プロジェクト企画案を発表する。	—	対面
	試験	筆記試験を行う。	—	対面
成績評価	最終試験 50%、アジアのビジネス・プロジェクト企画案の発表 50%			
教科書・教材	Comprehensive Asian Development Plan、Economic Research Institute for ASEAN and East Asia、2010。			
参考図書	A.ネグリ、M.ハート、帝国—グローバル化の世界秩序とマルチチュードの可能性、以文社、2003。 アンドレ・グンダー・フランク、リオリエント—アジア時代のグローバル・エコノミー、藤原書店、2000。 ジョヴァンニ・アリギ、北京のadam・スミス、作品社、2011。 William Easterly、The White Man's Burden - Why the West's Efforts to Aid the Rest Have Done So Much Ill and So Little Good」、The Penguin Press、2006			
獲得可能なコンピテンシー		獲得可能度合 (◎ ○ △ -)	獲得可能な内容	
メ タ	コミュニケーション	◎	アジアのビジネス・プロジェクト案の発表能力	
	継続的学修・研究	◎	アジアにおけるビジネス環境、ビジネス戦略の学習	
	チーム活動	—	—	
コ ア	発想力	◎	アジアのビジネス・プロジェクトの構想能力	
	表現力	◎	アジアのビジネス・プロジェクトの発表能力	
	設計力	◎	アジアのビジネス・プロジェクトの企画能力	
	開発力	○	アジアのビジネス・プロジェクトの開発能力	
	分析力	◎	アジアのビジネス環境、ビジネス戦略の分析能力	

専攻名	両専攻共通	必修・選択	選択	単位	2	学期	3Q
科目群	産業材料研究科共通科目	科目名	国際開発特論			教員名	前田 充浩
		(英文表記)	International Development Studies				

概要	開発援助（経済協力、国際開発）を通じた発展途上国の発展への貢献を行うための実務能力の習得を、講義と演習の組み合わせによって実施する。講義では、開発援助の基礎概念、新古典派経済成長論等通常の開発経済学の内容に加え、開発主義、金融地政学等国際関係論の視点、開発ファイナンス論等多岐にわたる内容を学ぶ。その知識を元に、個別のターゲットを選択し、それに対する開発援助プロジェクトの企画案を策定、発表し、指導を受ける。							
目的・狙い	<p>この授業は、学習者が、今日の発展途上国の発展問題についての理解を深め、開発援助の手法についての実務的な能力を身につけ、さらには具体的な開発援助プロジェクトを企画立案できる能力を獲得することを目的とする。具体的には、学習者はこの講義を通じて以下の知識や・能力を習得できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.開発援助の基礎的概念と、新古典派経済成長理論に基づく通常の開発経済学上の基礎を理解する。</li> <li>2.国際関係論等新たな視点に基づく開発援助の捉え方を理解するとともに、開発援助のファイナンス面についての実務的知識を獲得する。</li> <li>3.具体的なターゲットに対する開発援助プロジェクトの企画立案能力を獲得する。</li> </ol>							
前提知識 (履修条件)	発展途上国の開発問題、開発援助に関心を有すること。							
到達目標	上位到達目標							
	<p>開発援助の基礎概念の理解の上に、最先端の手法を用いて今日的な課題に対応できる開発援助プロジェクトを企画立案することができるようになる。</p> <p>開発援助関連の機関（国際機関、NPO、政府等）における政策提案（アドボカシー）ができるようになる。</p>							
到達目標	最低到達目標							
	<p>開発援助の基礎概念について理解し、従来型の開発経済学の枠組みで自らの関心ターゲットに対する開発援助プロジェクトを企画立案することができるようになる。</p> <p>開発援助関連の機関（国際機関、NPO、政府等）における政策立案の補佐ができるようになる。</p>							
授業の形態	形態		実施	特徴・留意点				
	対面授業	録画・対面混合授業		○				
		講義（双方向）		○				
		実習・演習（個人）		○	開発援助の企画案を作成し、発表する			
		実習・演習（グループ）		—				
	サテライト開講授業		—					
その他		—						
授業外の学習	毎回、次回の授業に関連する課題を指示するので、事前に作成すること。							
授業の内容	<p>開発援助（経済協力、国際開発）を通じた発展途上国の発展への貢献を行うための実務能力の習得を、講義と演習の組み合わせによって実施する。</p> <p>第1部に於いて、開発援助の基礎概念、開発援助政策史、新古典派経済成長理論等の講義を行う（一般的な開発援助論の講義と共通する内容である）。</p> <p>第2部に於いて、日本の開発援助政策の内容、及び金融地政学の講義を行う（AIIIT国際コース独自の内容である）。</p> <p>第3部に於いて、学習者が具体的な開発援助プロジェクトの企画案を策定し、指導を得る。</p>							
授業の計画	回数	内容					サテライト開講	対面/録画
	第1回	講義概要 講義の目的と15回の学習内容の解説をし、学習者が講義選択の判断ができるようにする。第1回の講義内容として、「発展途上国」及び「開発援助」の概念を示す。					—	録画
	第2回	開発援助の基礎概念 「ODA（政府開発援助）」を中心に、開発援助の基礎概念を説明する。					—	録画
	第3回	開発援助政策史Ⅰ（第2次世界大戦から東西冷戦過程） 世界の開発援助政策の歴史について、東西冷戦の枠組みで（国際関係論の視点で）俯瞰する。具体的には、「南北問題」という概念の誕生、OECDの設立とODAの概念の確定、開発援助に関する東西両陣営の競争である。					—	録画